



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月6日

上場会社名 武蔵精密工業株式会社 上場取引所 東 名
 コード番号 7220 URL http://www.musashi.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大塚 浩史
 問合せ先責任者 (役職名) 連結管理部長 (氏名) 伊藤 真佐弥 TEL 0532-25-8111
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月9日 配当支払開始予定日 平成29年12月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|-------------|---------|------|-------|-------|-------|-------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年3月期第2四半期 | 113,635 | 51.5 | 5,869 | 17.2 | 6,147 | 145.3 | 3,474 | 114.8 |
| 29年3月期第2四半期 | 75,012 | △7.9 | 5,008 | △13.4 | 2,506 | △47.5 | 1,617 | △51.9 |

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 5,558百万円 (-%) 29年3月期第2四半期 △9,687百万円 (-%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年3月期第2四半期 | 111.35 | 101.76 |
| 29年3月期第2四半期 | 51.84 | 47.32 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|---------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 30年3月期第2四半期 | 238,112 | 93,232 | 32.1 | 2,450.60 |
| 29年3月期 | 248,482 | 88,312 | 28.8 | 2,294.74 |

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 76,496百万円 29年3月期 71,582百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期 | — | 26.00 | — | 26.00 | 52.00 |
| 30年3月期 | — | 27.00 | — | — | — |
| 30年3月期(予想) | — | — | — | 27.00 | 54.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|------|--------|------|--------|------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 225,000 | 24.6 | 13,500 | 20.9 | 13,000 | 25.9 | 8,100 | 28.3 | 259.59 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|-------------|----------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 30年3月期2Q | 31,221,100株 | 29年3月期 | 31,200,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 30年3月期2Q | 5,870株 | 29年3月期 | 5,752株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 30年3月期2Q | 31,203,272株 | 29年3月期2Q | 31,194,461株 |

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (連結子会社の事業年度等に関する事項の変更) | 9 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 9 |
| (セグメント情報) | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2017年4月1日～9月30日）における連結売上高は、中国を含むアジア地域の売上増加、南米地域の売上回復、そして昨年買収したHAYグループの売上高が加わったことにより、113,635百万円（前年同期比51.5%増）と大幅に増収となりました。

収益面では、連結営業利益は、アジア地域の収益力向上、及びHAYグループの利益が加わったことにより、5,869百万円（同17.2%増）となりました。次に、連結経常利益は、為替の円安効果、及び前期に計上した為替差損の影響がなくなったことにより、6,147百万円（同145.3%増）となりました。そして、親会社株主に帰属する四半期純利益は、3,474百万円（同114.8%増）となりました。

自動車業界においては、シェアリングサービスの普及、コネクテッドカーの拡大、電動化による機構変化、そして自動運転技術の進化という、事業構造に関わる4つのビッグトレンドが加速度的に進行しております。これらの事業構造変化を更なる成長の機会とするため、当社グループは、既存事業の強化、及び次世代技術への取組強化を進めております。

当第2四半期連結累計期間におけるトピックスとして、生産領域については、HAYグループと相互の強みを融合させる技術面での交流、及びより一層の生産効率の向上に取り組んでいます。また、当社の新工場においては、当社の一貫生産を支える精密鍛造・精密加工技術に加えて、最新のAI・IoT技術を取り入れた最新鋭の工場として、圧倒的な生産性の向上を実現してまいります。

開発・生産技術領域では、北米地域の開発拠点において、お客様のニーズを開発の上流から捉えることにより、よりタイムリーな商品提案の実現と、これによる開発期間短縮に取り組んでいます。また、国内では、2017年10月、豊橋技術科学大学との間で、共同研究及び人材育成プログラムを柱とする包括連携協定を締結しました。社外連携を含めてイノベーションを加速し、先端技術の取り込み、生産技術の向上、新商品開発のスピードアップをはかっていきます。

営業領域では、2017年9月、HAYグループとともにフランクフルト・モーターショー（略称IAA、Internationale Automobil-Ausstellung）へ出展し、「グローバルムサシ」としての開発力・商品提案力をアピールしました。自動車業界のトレンドを見据え、需要の取り込みを積極的に進めています。

セグメント別の状況は次のとおりです。

（日本）

売上高は13,001百万円（前年同期比1.5%増）と増収ではありましたが、研究開発費増加及び新機種・新製品の立ち上げに伴う経費増加により、セグメント利益は280百万円（同0.8%増）に留まりました。

（北米）

主として米国ビッグ3メーカーへの売上減少、及び生産効率の低下により、売上高は20,820百万円（同1.9%減）、セグメント利益は412百万円（同70.6%減）となりました。

（欧州）

HAYグループが加わったことにより、売上高は37,202百万円（同13.3倍）、セグメント利益は573百万円（同13.6%増）となりました。

（アジア）

各社の増収及び生産性向上により、売上高は38,860百万円（同11.9%増）、セグメント利益は4,665百万円（同43.6%増）となりました。

（南米）

増収及び構造改革によるコスト改善により、売上高は3,751百万円（同8.4%増）、セグメント損失は181百万円（前年同期は592百万円の損失）と損失の圧縮を実現しました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前期末に比べて10,370百万円減少し、238,112百万円となりました。

流動資産は、前期末に比べて6,793百万円減少し、93,871百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少によるものであります。

固定資産は、前期末に比べて3,576百万円減少し、144,241百万円となりました。主な要因は、減価償却による有形固定資産の減少によるものであります。

負債は、前期末に比べて15,289百万円減少し、144,879百万円となりました。主な要因は、借入金の減少によるものであります。

非支配株主持分を含めた純資産は、前期末に比べて4,919百万円増加し、93,232百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果得られた資金は11,726百万円となりました。主なプラス要因は、税金等調整前四半期純利益6,045百万円、減価償却費9,416百万円の計上等です。主なマイナス要因は、法人税等の支払額2,801百万円等です。

投資活動の結果使用した資金は6,335百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出6,227百万円等です。

財務活動の結果支出した資金は15,037百万円となりました。主な要因は、借入金の減少13,309百万円等です。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、24,213百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期通期の連結業績予想につきましては、平成29年5月10日に公表いたしました予想を以下のとおり修正しました。なお、下期業績予想算定に用いた主な為替レートは、110円/US\$、130円/ユーロ（HAYグループは130.6円/ユーロ）、16.5円/人民元、3.4円/バーツです。

通期連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり当期純利益 |
|-------------------------|---------|--------|--------|-----------------|------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想 (A) | 213,000 | 13,000 | 12,500 | 7,800 | 250.05 |
| 今回発表予想 (B) | 225,000 | 13,500 | 13,000 | 8,100 | 259.59 |
| 増減額 (B-A) | 12,000 | 500 | 500 | 300 | — |
| 増減率 (%) | 5.6 | 3.8 | 4.0 | 3.8 | — |
| (ご参考)前期実績 (平成29年3月期) | 180,522 | 11,166 | 10,323 | 6,315 | 202.47 |

(修正の理由)

各地域の業績動向、及び最近の為替動向を考慮し予想算定レートを見直した結果、前回予想を上回る見込みとなりました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日) |
|----------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 30,607 | 22,116 |
| 受取手形及び売掛金 | 27,374 | 29,131 |
| 商品及び製品 | 9,522 | 10,080 |
| 仕掛品 | 5,313 | 5,778 |
| 原材料及び貯蔵品 | 18,562 | 17,703 |
| 繰延税金資産 | 1,174 | 1,195 |
| その他 | 8,152 | 7,907 |
| 貸倒引当金 | △42 | △43 |
| 流動資産合計 | 100,664 | 93,871 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 41,572 | 42,180 |
| 減価償却累計額 | △17,939 | △18,673 |
| 減損損失累計額 | △943 | △893 |
| 建物及び構築物 (純額) | 22,688 | 22,614 |
| 機械装置及び運搬具 | 200,075 | 205,157 |
| 減価償却累計額 | △130,497 | △136,973 |
| 減損損失累計額 | △1,165 | △1,113 |
| 機械装置及び運搬具 (純額) | 68,412 | 67,071 |
| 工具、器具及び備品 | 10,467 | 10,839 |
| 減価償却累計額 | △6,706 | △7,144 |
| 減損損失累計額 | △51 | △47 |
| 工具、器具及び備品 (純額) | 3,708 | 3,647 |
| 土地 | 6,300 | 6,651 |
| 建設仮勘定 | 7,005 | 4,957 |
| 有形固定資産合計 | 108,116 | 104,942 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 8,874 | 8,936 |
| 顧客関連資産 | 14,110 | 14,055 |
| ソフトウェア | 1,626 | 1,470 |
| ソフトウェア仮勘定 | 155 | 161 |
| その他 | 3,251 | 3,181 |
| 無形固定資産合計 | 28,017 | 27,804 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 5,744 | 5,749 |
| 出資金 | 73 | 84 |
| 長期貸付金 | 48 | 61 |
| 繰延税金資産 | 2,751 | 2,506 |
| その他 | 3,117 | 3,144 |
| 貸倒引当金 | △51 | △51 |
| 投資その他の資産合計 | 11,683 | 11,494 |
| 固定資産合計 | 147,818 | 144,241 |
| 資産合計 | 248,482 | 238,112 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 17,127 | 15,641 |
| 短期借入金 | 28,589 | 12,732 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 9,390 | 1,839 |
| 未払金 | 3,523 | 2,445 |
| 未払費用 | 5,509 | 5,706 |
| 未払法人税等 | 1,388 | 1,330 |
| 賞与引当金 | 1,825 | 2,653 |
| 役員賞与引当金 | 47 | 32 |
| 製品補償引当金 | 23 | 23 |
| その他 | 4,561 | 3,992 |
| 流動負債合計 | 71,985 | 46,399 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 10,016 | 10,011 |
| 長期借入金 | 64,663 | 75,305 |
| 繰延税金負債 | 6,631 | 6,708 |
| 退職給付に係る負債 | 5,037 | 5,005 |
| その他 | 1,835 | 1,448 |
| 固定負債合計 | 88,184 | 98,480 |
| 負債合計 | 160,169 | 144,879 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,973 | 3,006 |
| 資本剰余金 | 1,952 | 1,985 |
| 利益剰余金 | 71,114 | 74,406 |
| 自己株式 | △7 | △8 |
| 株主資本合計 | 76,033 | 79,389 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,394 | 2,440 |
| 繰延ヘッジ損益 | △0 | — |
| 為替換算調整勘定 | △6,467 | △5,093 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △376 | △240 |
| その他の包括利益累計額合計 | △4,450 | △2,893 |
| 非支配株主持分 | 16,730 | 16,736 |
| 純資産合計 | 88,312 | 93,232 |
| 負債純資産合計 | 248,482 | 238,112 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 75,012 | 113,635 |
| 売上原価 | 62,612 | 97,239 |
| 売上総利益 | 12,399 | 16,396 |
| 販売費及び一般管理費 | 7,391 | 10,526 |
| 営業利益 | 5,008 | 5,869 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 73 | 181 |
| 受取配当金 | 86 | 136 |
| 為替差益 | — | 206 |
| 助成金収入 | 259 | 178 |
| その他 | 107 | 205 |
| 営業外収益合計 | 527 | 908 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 487 | 557 |
| 固定資産除却損 | 6 | — |
| 為替差損 | 2,497 | — |
| その他 | 37 | 72 |
| 営業外費用合計 | 3,028 | 630 |
| 経常利益 | 2,506 | 6,147 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 30 | 12 |
| 特別利益合計 | 30 | 12 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 8 | 42 |
| 固定資産除却損 | 7 | 72 |
| 減損損失 | 6 | — |
| 特別損失合計 | 22 | 115 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 2,513 | 6,045 |
| 法人税等 | 593 | 2,328 |
| 四半期純利益 | 1,920 | 3,716 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 302 | 242 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 1,617 | 3,474 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 1,920 | 3,716 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △200 | 46 |
| 繰延ヘッジ損益 | — | 0 |
| 為替換算調整勘定 | △11,468 | 1,624 |
| 退職給付に係る調整額 | 60 | 169 |
| その他の包括利益合計 | △11,607 | 1,841 |
| 四半期包括利益 | △9,687 | 5,558 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △8,822 | 5,031 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △864 | 526 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日) |
|--|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 2,513 | 6,045 |
| 減価償却費 | 5,612 | 9,416 |
| 減損損失 | 6 | — |
| のれん償却額 | — | 304 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △35 | 1 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 286 | 516 |
| 役員賞与引当金の増減額 (△は減少) | △11 | △14 |
| 製品補償引当金の増減額 (△は減少) | △0 | △0 |
| 退職給付に係る負債の増減額 (△は減少) | △46 | 133 |
| 受取利息及び受取配当金 | △160 | △318 |
| 支払利息 | 487 | 557 |
| 為替差損益 (△は益) | 2,239 | △259 |
| 有形固定資産除売却損益 (△は益) | △7 | 102 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △1,879 | △1,332 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | 401 | 249 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | 3,301 | △765 |
| その他 | 1,379 | 156 |
| 小計 | 14,087 | 14,793 |
| 利息及び配当金の受取額 | 155 | 310 |
| 利息の支払額 | △495 | △576 |
| 法人税等の支払額 | △1,245 | △2,801 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 12,501 | 11,726 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △4,908 | △6,227 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 101 | 73 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △285 | △81 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △28 | △28 |
| 貸付けによる支出 | △44 | △142 |
| 貸付金の回収による収入 | 38 | 120 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出 | △28,115 | — |
| その他 | △45 | △48 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △33,288 | △6,335 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | 16,982 | △15,768 |
| 長期借入れによる収入 | 10,002 | 11,273 |
| 長期借入金の返済による支出 | △2,001 | △8,814 |
| 自己株式の取得による支出 | — | △0 |
| 配当金の支払額 | △779 | △811 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | △71 | △520 |
| その他 | △24 | △396 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 24,106 | △15,037 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △1,883 | 77 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 1,437 | △9,569 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 14,253 | 32,697 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 701 | — |
| 連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物 の増減額 (△は減少) | △70 | 1,085 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 16,321 | 24,213 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

従来、決算日が12月31日であった連結子会社ピーティー・ムサシオートパーツインドネシア及びムサシハンガリーマニュファクチャリング・リミテッドは、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っていましたが、より適時適切な情報に基づき、財務情報としての有用性を高めるため、第1四半期連結会計期間より決算日を3月31日に変更しております。

これに伴い、当該連結子会社の平成29年1月1日から平成29年3月31日までの損益については、それぞれ利益剰余金の増減として調整しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用について、当社及び国内連結子会社は、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報)

Ⅰ 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 日本 | 北米 | 欧州 | アジア (注) 3 | 南米 | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2 |
|-----------------------|--------|--------|-------|--------------|-------|--------|--------------|----------------------------|
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 12,811 | 21,223 | 2,790 | 34,725 | 3,461 | 75,012 | — | 75,012 |
| セグメント間の内部売 上高又は振替高 | 10,708 | 201 | 1 | 2,258 | 4 | 13,174 | △13,174 | — |
| 計 | 23,520 | 21,425 | 2,791 | 36,984 | 3,465 | 88,187 | △13,174 | 75,012 |
| セグメント利益又は損失 (△) | 278 | 1,401 | 504 | 3,249 | △592 | 4,841 | 166 | 5,008 |

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額166百万円は、セグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 3. 第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めました武蔵精密自動車零部件(南通)有限公司及び武蔵精密企業投資(中山)有限公司は、「アジア」に含めております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、ハイホールディング・ゲーエムベーハーの全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度末に比べ、当第2四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、「欧州」セグメントにおいて、70,947百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれん金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間に「欧州」セグメントにおいて、ハイホールディング・ゲーエムベーハーの全株式を取得し、同社を連結子会社としました。当該事象によるのれんの増加額は当第2四半期連結会計期間末日において8,558百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 日本 | 北米 | 欧州 | アジア | 南米 | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2 |
|-----------------------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|--------------|----------------------------|
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 13,001 | 20,820 | 37,202 | 38,860 | 3,751 | 113,635 | — | 113,635 |
| セグメント間の内部売 上高又は振替高 | 10,146 | 148 | 0 | 2,311 | 0 | 12,608 | △12,608 | — |
| 計 | 23,147 | 20,968 | 37,203 | 41,172 | 3,752 | 126,243 | △12,608 | 113,635 |
| セグメント利益又は損失 (△) | 280 | 412 | 573 | 4,665 | △181 | 5,749 | 119 | 5,869 |

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額119百万円は、セグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。